

## 大腸がん検診精密検査受診率向上を目指した取り組み ～健診当日の情報提供・受診勧奨とアンケート調査～

○桜沢美土里、野崎洋文、宗像ゆかり、遠藤光恵、三浦利恵子、渡部千郷、河西祐子  
(公財) 郡山市健康振興財団

### 【目的】

当施設では就労者の大腸がん検診(便潜血2日法)の精密検査受診率は他の検診に比べ低いが、毎年数名の大腸がんが発見されている。早期の大腸がん発見をするために、精密検査受診率向上を目指し、大腸がんについての情報提供・アンケート調査を行ったので報告する。

### 【対象・実施内容】

平成29年度に大腸がん検診を受けた6,636名に、大腸がん検診精密検査の必要性を伝えるチラシを作成し、検診受診者一人一人に保健師面談時に手渡しした。その際、必要時に過去の健診履歴3年分の結果を見ながら説明や受診勧奨を行った。

さらに、前回当施設健診受診時の大腸がん検診判定が要精密検査だった方390名に、大腸がんの精密検査を受診した理由、未受診の理由についてアンケート調査を行った。

### 【結果】

保健師から説明すると、反応の乏しい方も多かったが、「大腸がん検診により大腸がんが見つかった」、「親族に大腸がんがいる」など、精密検査の重要性を感じている方もいた。

アンケートの結果は、「精密検査を受診したか」という質問に、「受診していない」188名(48.2%)、「受診した」202名(53.2%)だった。受診した理由は、多い順に、「当然受けなければならないと思った」31.5%、「紹介状が入っていたため」24.4%、「大腸がん検診で要精密検査が続いていたため」5.4%であった。「家族のすすめ」4.9%、「職場のすすめ」4.1%であった。未受診の理由は、多い順に、「受ける時間がなかった」25.1%、「自己判断で問題ないと思った」17.2%、「次回の検診で確認しようと思った」12.1%であった。

なお、精密検査受診率は平成28年度45.3%、平成29年度36.5%であった。

### 【まとめ】

今まで、大腸がん検診について保健師から積極的に話す機会は少なかったが、今回の取り組みにより、健診者から様々な声を聞くことができた。しかし、平成29年度の受診率は前年度と比べ低下しており、チラシを手渡した効果はみられなかった。

アンケートの結果から、家族・職場・医療従事者など他者からのすすめによる受診は合わせても10%程度であり、医療機関を受診した方の半数以上は、健診結果から受診する必要性を自ら感じることで受診行動につながっていた。未受診の方は「受ける時間がなかった」と日々の生活の中で大腸がんの精密検査受診の優先度が低くなっていること、また、検査のための時間が長くかかることが受診率の伸びない理由ではないかと考える。検査結果が受診者の手元に届いた時点で精密検査受診の必要性・重要性を自ら感じることできる通知、情報提供の工夫を検討していきたい。また、個人へのアプローチに加え、職場への理解を促す働きかけも必要であると考ええる。